

二〇二五年度学力試験問題の「出題意図」・「評価ポイント」について

国語【昼間コース 一般選抜・前期日程】

問題一

出題意図

問題文は、民主主義と嫉妬との複雑な関係について論じたものである。一般的には民主主義にとつて有害と思われるがちな嫉妬であるが、民主主義の基本理念である平等の要求と差異の尊重を念頭に置いたとき、嫉妬の存在はどうしても避けて通れないことが論じられている。引用が多く、地の文と引用文との関連を正確に捉える必要があるなど、読解にあたって注意すべきポイントを複数含む文章であるが、段落ごとに読み解いていくことで、高等学校卒業程度の基本的な国語力があれば理解可能でありつつも、嫉妬と民主主義をめぐる常識的な理解を揺さぶる知的興奮に満ちたテキストである。設問は、基本的な語彙力、筆者の主張を正確に読解した上で、文意・文脈あるいは文の構造を適切に把握できているか、さらには筆者の主張を正しく読み取るとともに適切に要約できているかを問うもので構成されている。

評価ポイント

- 問一 一般的な評論等で用いられる範囲の難易度の漢字について、書き取りが正確にできていること。
- 問二 問題文全体の文脈と各段落の文意を正しく把握し、各文をつなぐ語を適切に選択できていること。
- 問三 問題文全体の文脈を理解し、抜き出された引用文の位置を適切に判断できていること。
- 問四 問題文の文脈を理解し、適切な語句を本文から抜き出せていること。
- 問五 傍線部の意味を理解するとともに該当部を適切に抜き出せていること。
- 問六 問題文の内容全体を理解し、その正誤を正確に判断できていること。
- 問七 問題文中における筆者の主張の肝要な部分を読み取るとともに指定の語句を用いて、字数制限に合わせて表現できていること。

問題二

出題意図

古文に頻出する古語や定型的表現を理解しているか、高等学校で学習する古典文法や古典についての知識を一定以上習得しているかを問う。また、これらを用いて、古文の文章、意味・内容(文脈・状況設定や登場人物の考え・心情など)を正確に把握できているかどうかをみる。さらに、日本古典文学史について基礎的な知識を持っているかを確認する。

評価ポイント

問一 古文によく見られる古語を正しく読み、書くことができること。

問二 作者が恋の思いを綿々と述べる古文の文脈をたどることができていること。各該当箇所に入る最も適切な語句を選択肢から選んで、正しく書くことができていること。

問三・問四 古歌を踏まえて作者の思いを述べる古文の文章と、それら古歌の踏まえられ方を理解できていること。古歌の中の各該当語句を正しく抜き出し書くことができていること。

問五 『源氏物語』の場面と和歌を踏まえて描かれる『うたたね』の場面について、それらの踏まえられ方を理解できていること。『源氏物語』の和歌の中の該当語句を正しく抜き出し書くことができていること。

問六 本文の中で引用された手紙文を見分けることができること。

問七 基礎的な古文の文法・単語を知り、当該の文脈を理解した上で正しい現代日本語に訳すことができていること。

問八 作者の葛藤する恋の気持ち、相矛盾する思いと行動を理解していること。正しい現代日本語を書くことができていること。

問題三

出題意図

問題文は、AIやロボットと人間の関係についての相対的なあり方をめぐる論考である。その相対的なあり方とは、主体としての人間と客体としての機械がそれぞれを比較することによって互いに影響を与えながら変容するもので、筆者はそれを機械カニバリズムと名付けている。設問では基本的な語彙力の他、文脈把握力やキーワードを適切に見つけ出すことができるか、本文の内容を適切に要約することができるか、そして本文全体を見渡して内容を理解できているかを問うもので構成されている。

評価ポイント

- 問一 一般的な評論文等で用いられる範囲の難易度の漢字について、書き取り・読み取りが正確にできていること。
- 問二 問題文の文脈を理解し、適切な語句を選択肢から選び出せていること。
- 問三 文章が示す文脈を理解し、問題文のキーワードと結び付けられること。
- 問四 問題文のキーワードの意味を理解し、適切な文脈へ当て嵌められること。
- 問五 問題文で述べられる複数の要素を的確に要約し、説明できること。
- 問六 問題文の内容全体を理解し、その正誤を正確に判断できていること。

問題四

出題意図

唐代の著名な詩人である白居易の詩より出題した。詩では、貧しく年老いた農夫の悲哀と、厳しく税金を取り立てる役人の過酷さが、平明な詩句を用いて物語り風に描かれている。更に、時の皇帝による免税措置が実を結ばなかったことも書き加えられており、白居易による社会批判詩として読み応えのある内容である。高等学校までに学習した漢字・漢語・漢文の能力を用いれば、この長詩を味読し、比喻を正しく読み取ることには難しくはない。問題では漢字・漢語の理解度、漢文法の知識や習熟度を確認するとともに、詩の内容を正確に読み取り十分に理解できているかを問うた。

評価ポイント

- 問一 漢文の知識を用いて各字の正しい読み方を答えられていること。
- 問二 指定された漢字の意味を文脈に沿って理解した上で、漢語の知識を活用して正しく解答できていること。
- 問三 漢文の語法を理解し、本文の内容を踏まえて正しく読み下せていること。
- 問四 詩の内容を十分に理解し、問題に正しく答えられていること。
- 問五 指定された語と文の意味を理解し、設問の意図に沿って正しく解答できていること。
- 問六 詩全体を正確に読み取り、設問の意図に沿って適切に説明できていること。
- 問七 詩全体の内容を理解した上で、指定された詩句を日本語に正しく訳せていること。
- 問八 白居易が作詩した意図を読み取り、漢文の語法に従い、正しく返り点を加えていること。

二〇二五年度学力試験問題の「出題意図」・「評価ポイント」について

国語【昼間コース 一般選抜…前期日程】

問題 一

出題意図

親にとつての「子どもの価値」の時代変遷と文化による違い、そして、それが子ども自身に与える影響について学術的に説明した文章である。平易な言葉で書かれており、論理展開も明快である。設問は基本的な語彙力や、文章構造を把握する力、筆者の主張を読解する力などを問うており、高校卒業程度の基本的国語力があれば解答可能である。

評価ポイント

- 問一 基本的な漢字について、読み取り・書き取り（止め、はね、払い等も含め）が正確にできると。
- 問二 問題文全体の構造を踏まえ、該当部分に入るべき内容を正確に特定することができる。
- 問三 問題文における論理展開を把握し、周囲から類推して語句を適切に位置づけることができる。
- 問四 問題文で示された現象の原因について、背景にある要因まで正確に把握し、適切に表現することができる。
- 問五 「親のための子どもの教育」と「子どものための教育」の違いに関する筆者の考えを正確に読み取り、適切に表現することができる。
- 問六 問題文の内容を包括的に読み取ることができる。

問題二

出題意図

古文に頻出する古語や定型的表現を理解しているか、高等学校で学習する古典文法や古典についての知識を一定以上習得しているかを問う。また、これらを用いて、古文の文章、意味・内容(文脈・状況設定や登場人物の考え・心情など)を正確に把握できているかどうかをみる。さらに、日本古典文学史について基礎的な知識を持っているかを確認する。

評価ポイント

問一 古文によく見られる古語を正しく読み、書くことができること。

問二 『伊勢物語』「東下り」の有名なエピソードと、そのパロディ作品『仁勢物語』該当部を比較する文章を理解できていること。各空欄に入る語句や表現を本文から選んで、ひらがな(現代仮名遣いでも旧仮名遣いでも良い)で正しく書くことができること。

問三 基礎的な古文の文法・単語を知り、当該の文脈を理解した上で正しい現代日本語に訳すことができること。

問四 『伊勢物語』の雅の世界を反転させた『仁勢物語』の俗の世界、滑稽・ナンセンスを理解していること。正しい現代日本語を書くことができること。

問五 日本古典文学史について基礎的な知識を持っていること。

問題三

出題意図

問題文は、社会と国家についてアジアとヨーロッパを対比して論じた、著名な中国学者の文章である。やや硬質な文体ではあるものの、筆者の意図を考えながら読み解いていけば、高等学校卒業程度の国語力によって、十分に理解できる内容である。設問では、基本的な語彙力のほかに、筆者の主張を正確に読解できているか、文脈を十分に把握できているか、更に設問の指示に従って正しく説明できているかを問うた。

評価ポイント

- 問一 一般的な評論文で用いられる漢字について、読み取りや書き取りが正確にできていること。
- 問二 問題文を正確に読み解き、問題の指示に従って、正しく解答できていること。
- 問三 問題文を正確に読み解き、文脈を踏まえて、正しく解答できていること。
- 問四 問題文の内容を十分に理解し、文脈の流れに沿って、正しく答えられていること。
- 問五 問題文全体の内容を十分に理解し、筆者の意図を踏まえて、正しく説明できていること。
- 問六 問題文全体の内容を十分に理解し、問題の指示に従って、正しく説明できていること。

問題四

出題意図

問題文の著者である王安石は、宋代の著名な政治家・文学者として世界史の教科書にもその名が見える人物である。問題文は、この王安石が表した旅行記であり、唐・宋の名文集にも選ばれた名文である。やや長文ではあるものの、文脈に従って読み進めれば、この名文を鑑賞し、筆者の意図を読み取ることは難しくなろう。問題では、漢字・漢語の理解度、漢文法の知識や習熟度を確認するとともに、文章の内容を正確に読み取り十分に理解できているかを問うた。

評価ポイント

- 問一 指定された漢字の読み方を、文脈の意味に従って正しく答えられていること。
- 問二 指定された漢字の意味を文脈に沿って理解し、正しく解答できていること。
- 問三 問題文の内容を十分に理解し、内容を踏まえて正しく答えられていること。
- 問四 問題文の内容を十分に理解し、問題に従って正しく答えられていること。
- 問五 漢文の語法を理解し、問題文の内容を踏まえて正しく読み下せていること。
- 問六 筆者の意図を十分に理解し、漢文の語法に従い、正しく返り点を加えていること。
- 問七 問題文全体の内容を理解した上で、指定された文を文脈に沿って正しく訳せていること。